

# 津々浦々

⑤3

津久見市長 吉本幸司

”安・近・短“でも

気軽に楽しめるつくみ

今年のゴールデン・ウィークは暦の関係で前期と後期がはっきりと分かれたこともあり、前期の観光客の入り込み数は、県内観光地のどこもが前年よりも15%ほどの減だったようで、当市の『つくみイルカ島』も同様でした。また、消費税の影響もあり、近場で日帰りや短期間という”安・近・短“の傾向が見られました。

私は5月3～5日の3日間、10時頃から17時近くまで『つくみイルカ島』入口前の案内受付で市内の観光やグルメマップの配布をしました。今年は圧倒的に宮崎県内からの入場者が多く、特に宮崎県北の延岡市辺りからのお客様が宮崎県の大半を占めました。宮崎県の次には、福岡県、熊本県、佐賀県

と続いたようです。県内においては別府、大分市以南は減少してきましたが、県北や日田・玖珠からが増えたように感じました。私はパンフレットを配りながらいろいろと声をかけ、「どこから来られたのですか？」と必ず最後に訊ねることにしたのですが、問いかけに、みなさん気持ちよく応じてくれました。子ども連れのお客様が出てくるときは「帰りに遊具のたくさんある『つくみん公園』に寄って帰ってネ」と声をかけると、子どもさんは「行きたい！」と、親は「そんなところがあるんですか？」と熱心に場所を聞いてきます。中には「口コミで聞いています。」「これから行きます。」「ここに来る前に、行ってきました。」という返事も多く、10年過ぎても『つくみん公園』人気はまだまだ十分にあると思います。現に「駐車場がいっぱいで、車

の停め場所がなかった」等の意見もありました。また、「近くに道の駅や物産館などはありませんか？」とか、「海鮮丼か何かを食べたいんですが」という問い合わせも多かったです。

## 動向把握と戦略性

東九州自動車道の蒲江～佐伯間が26年度中に開通します。延岡～佐伯間は国交省直轄の自動車専用道となり通行料無料ですから、来年は宮崎からのお客様がさらに増えてくると思います。

我々からみれば、宮崎といえば『青島』『日南海岸』『高千穂』といった昔からの有名な観光地を多く有する”観光立県宮崎“ですが、その宮崎も観光客が伸び悩んでいると聞きます。大分県は宮崎県よりも遅れて観光に着手してきました。自然の観光地以外にもいろんな観光施設が造られています。『パークプレイス』や『わさだタウン』といった商業施設も宮崎県のお客様が年々増えているそうです。

集客力アップのためには

みなさんの「力」が必要です

来年は東九州自動車道宮崎方面の全面開通、大分駅新装開業、7～9月の『J.R. デスティネーションキャンペーン』等、観光動向に変化が生じてくると思われます。観光がすべてではありませんが、少子高齢化等で人口が減少している県内各市にとつて、入り込み客を増やし、多くの消費をしてもらえる仕組みは必要でしょう。近年、県内でも国東市、竹田市、臼杵市などが観光に力を入れてるように、各市町村間の競争も気の抜けない状況です。

5月3～5日の『つくみイルカ島フェスティバル』期間中、園内では『四浦やらんせ市』、うみえくるでは『みなとオアシスやらんせ市』等に頑張っていたが、一定の成果は出たと思いますが、荒代婦人会の方の「三日間は年とつたらキツイわ!」という声もありました。若い人や少しでも多くの人の関わりも必要かな?とも感じた次第です。